

蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

ともえごぜん だいにちによらい
第15回 巴御前と大日如来



今回のおうちミュージアムでは、木曾義仲きそよしなかに仕えた巴御前ともえごぜんと龍照院りゅうしょういんの
大日如来だいにちによらいを紹介しょうかいします。

(挿絵：『蟹江町制100年記念 蟹江むかしのものがたり』(蟹江町、1988年)より)

① 巴御前ってどんな人？

巴御前は、今からおよそ 900 年前の平安時代に活躍した木曾義仲(*)に仕えたという女性です。巴御前は美しいだけでなく、とても力が強く、武芸にも秀でた女武者だったとされています。また義仲とは、公私ともに良きパートナーであったともいわれていますが、はっきりしたことはわかりません。もしかすると、実在しない伝説上の人物だったのではないかとともいわれています。

巴御前は、幼いころから義仲とともに武芸の稽古をしながら育ちました。義仲が平氏を倒すために京都に向かったときも、京都の宇治川で源義経に敗れたときもずっと傍におり、義仲を支え続けました。

義経に敗れた義仲は、巴御前に逃げるように命じます。はじめはその命令を断った巴御前ですが、義仲が何度も逃げるように命じ続けると、最後は命令に従い、義仲と別れて落ち延びることとなりました。

その後、義仲は討たれてしましますが、巴御前の行方はどうなったのか、はっきりとしたことはわかりません。しかし、巴御前が地方へ落ち延びたという伝説は全国各地に残っています。蟹江町もその一つです。

(*) 詳しくは おうちミュージアム第 14 回「木曾義仲と龍照院」をご覧ください。

② 義仲を吊う巴御前

蟹江町に伝えられる伝説は、次のとおりです。

義仲と別れたあと、無事に京都を離れることができた巴御前ですが、義仲が討たれたことを知ると、とても深く悲しみました。

1190年(文治6年)、巴御前は蟹江の須成にある常楽寺へとやってきました。この常楽寺は、1182年(寿永元年)に義仲が平氏を倒すために京都



へ向かう途中で立ち寄り、再建したというお寺です。巴御前はこの寺で尼となり、亡くなった義仲のために祈ることを決めました。このとき、名も「東阿禅尼」と変えました。

尼となった巴御前は、常楽寺の境内に大日堂というお堂を建てると、大日如来の仏像を安置しました。そして義仲の位牌をおさめると、その菩提を弔いました。

③ 大日堂と大日如来像

龍照院にある大日堂は新しいものに建て替えられていますが、その中には巴御前が義仲を弔うために祈りをささげた大日如来像が今も安置されています。現在も、多くの方がこの大日如来像へお参りに訪れています。



龍照院の大日堂



今からおよそ 900 年前の平安時代の終わりごろに作られたとされる大日如来像は、蟹江町の指定文化財となっています。



大日堂に掲げられた扁額